

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <北海道 水産食料品 >
各社、価格変更等を行っているが、原材料価格の高騰に追いついていない。円安のため外国人労働者を集めることも難しい。円安をどうにかしないと問題は解決しないと思われる。
2. <秋田県 豆腐 >
円安の影響で燃料、電気料金、原材料などが軒並み値上がりしており、製品価格を値上げしても追いつかない。その様な中で、最低賃金も値上がりし、企業運営は極めて厳しい状況にある。
3. <滋賀県 酒類 >
10月は旅行割引やイベント復活等により地酒の動きはよくなってきた。海外向けの輸出の数値も上昇してきている。
4. <山口県 パン・菓子 >
全国旅行支援が始まり、登録店舗では利用者が増加しているものの、依然としてコロナ前の売上には戻っていない状況。反動はどうなるのかと、既に年末年始を不安視する声もある。
5. <香川県 製粉製麺 >
各地でイベント等の開催が復活し、明るい兆しはみられる。業務用小麦粉価格の値上げは見送られたが、輸入に頼る資材、光熱費、輸送費、人件費の高騰が経営に重くのしかかっている。
6. <熊本県 調味料 >
業務用や大手スーパー等は値上げを受け入れないため、100%の値上げは出来ていない。また、原料の高騰が値上げを上回っており、価格の転嫁があまり出来ていない状況である。

繊維・同製品製造業

7. <福島県 縫製 >
今後数か月の受注量は確保できているものの、単価に関しては厳しい面がみられる。また、光熱費、資材の値上げがどこまで続くかが大きな不安要素となっている。
8. <群馬県 レース >
円安による製造コスト増を転嫁できずに苦戦を強いられているが、売上高は増加しており、新規受注も増えつつある。
9. <富山県 ニット >
受注状況は回復傾向で、コロナ禍前の状況に戻りつつあるが、原料高や電気代の値上がり等によって、収益は悪化している。
10. <京都府 織物 >
円安による輸入生糸価格の高騰が機業経営を圧迫している。組合加工場の加工料金値上げが10月21日より実施され、価格転嫁交渉の進捗状況が気になるところである。
11. <鹿児島県 紬 >
検査反数は約10%減少した。円安で糸などの原料が値上りし、組合、組合員ともに厳しい状況である。11月～3月の繁忙期に期待している。
12. <沖縄県 繊維・同製品 >
コロナ前の日常を取り戻しつつあり、人流の回復に伴って商品の動きも前年より回復しつつある。ただ原材料費や電気代の高騰をそのまま価格に転換できないため、今後はやや不安である。

木材・木製品製造業

13. <岩手県 一般製材 >
県内の新設住宅着工戸数は、昨年と比較して約23%減の479戸と大幅に減少した。引き続き建設資材の高騰等の影響を注視する必要がある。
14. <栃木県 一般製材 >
木材の販売価格がウッドショック以前の金額に戻りつつある状態だが、住宅需要の低下により、木材に動きがない状態が続いている。
15. <石川県 製材、木製品 >
10月度売上は昨年と比較すると10%程度減少している。9月に引き続き低調である。受注が取れるところと取れないところが明確化してきており、年間10棟以下の工務店が苦戦している。

16. <和歌山県 家具・装備品 >
10月初旬は商業施設開業等で一時的に受注が増加したが、後半は少し落ち着いている。年度末にかけては建築関連に動きがありそうで、今後の開発ラッシュに期待している。
17. <徳島県 製材 >
昨年のウッドショック時に比べて売上は減少しており、様々な物価の上昇により経費は増えている。それでいて製品の価格には転嫁しづらい状況である。
18. <宮崎県 製材 >
10月の実績は前年比71%と大きな落ち込みとなった。予想以上の減少幅で、今後大きな不安が出てきた。円建ての輸出に関しては、円安でやや有利な状況だが、棟数は左程増えていない。

紙・紙加工品製造業

19. <茨城県 段ボール >
前年同月よりも少し生産数量が少なかった。様々な物の物価上昇に伴い、収益が悪化している。10月より当業界の主原料が値上がりになり、今後の更なる収益の悪化が心配される。
20. <岐阜県 機械すき和紙 >
紙業業界は、引き続き業種による格差はあるものの、売上高は回復し雇用人員は増加傾向にある。しかし収益は、円安及びロシアのウクライナ侵攻による原燃料や各種副資材の価格の高騰で悪化している。
21. <三重県 紙器段ボール >
円安や食品を中心とする値上げラッシュで需要が停滞し、我々中小の段ボールメーカーは苦戦をしている。段ボール原紙の値上げがほぼ決着し、これから段ボールシート、ケースの値上げ要請が本格化する。
22. <大阪府 古紙収集加工 >
10月も新聞古紙の発生は非常に悪い。雑誌古紙も含め発行部数の減により慢性的に減少の一途になると予想され、業界全体としての景況は悪化している。
23. <鳥取県 和紙 >
原材料の高騰によって収益に悪影響が出ている。書道用紙は需要期に入るため、操業率は上昇しているが、全体の景況としては、まだ厳しい状況。
24. <愛媛県 機会すき和紙 >
衛生用紙の国内出荷は、前年同月比3.0%増、11か月連続のプラス。原燃料等のコストアップの価格転嫁（今年度二次値上げ）に対応中。年末の需要期に向けて、古紙不足が懸念されている。

印刷

25. <千葉県 印刷・同関連 >
県内の印刷の仕事は先月に引き続き良くなってきている。県内全体の動きは十分把握出来ていないが、コロナの影響は少なく、比較的回復が早そうである。
26. <東京都 金属印刷 >
電気、ガスなどのエネルギーコストが高騰している。また、インキ、塗料などあらゆる諸資材の再三にわたる値上がりで、価格改定の交渉も時期が遅れてしまっている。
27. <山梨県 印刷・同関連 >
今年に入り3回の材料の値上り、来年1月にも15%程度の値上りが予定されている。値上りの背景には原材料価格の高騰や円安の影響もあるが、根本の理由は製紙会社の生産調整にある。
28. <奈良県 印刷 >
10月、11月は繁忙期になるが人員が増えない。退職したらそのまま、新たに雇わないところが多い。欲しい人員は営業職で、即戦力になる人材が見つからない。
29. <岡山県 印刷・出版 >
新型コロナウイルス感染症の状況も少し落ち着き、各業界の販促関係の印刷物が増加しており、売上高は前年を上回っている。
30. <香川県 印刷 >
売上が回復しない状況の中、コロナ融資の返済が始まり資金繰りにも苦慮している。人材の募集を行っても年齢層の若い男性が不足している。

化学・ゴム

31. <埼玉県 化学ゴム >
上限が見えない原材料価格の上昇により、今後の対策が不透明な状況になっている。今後、電気使用量の制限等製造業にとって不利な時期を迎えると思われる。
32. <愛知県 高圧ガス >
上昇傾向にある仕入価格の転嫁が遅れており、収益悪化が顕著となっている。工作機械向け以外、特に輸送機器向けは低調に推移している。

33. <奈良県 プラスチック >
高騰している材料費は高止まりし、海上コンテナ輸送費も減少してきた。しかし、相次ぐ資材等の値上りだけでなくエネルギーの高騰と人件費の上昇により、収益改善が未だに望めない状況である。
34. <大阪府 石鹼洗剤 >
コロナ禍の反動減に苦しんだ石鹼は、浴用固形、手洗い用液体共に増加傾向。一方、合成洗剤では台所用、住宅・家具用共に好調だが、円安、価格転嫁の難しさで景況は悪化している。
35. <島根県 プラスチック製品 >
量産品受注、売上については、ほぼ横ばいだが、先行き危機感を感じる。好調な新規受注、価格転嫁により売上は上昇しているが、輸送費、光熱費、人件費等が吸収できず、収益は悪化している。
36. <広島県 プラスチック製品 >
原材料価格等の高騰が予想以上であり、値上げ分を製品単価へ転嫁することが難しく、採算を大きく圧迫している。自動車関連は、回復傾向が見られるが、不透明感が強い。

窯業・土石製品製造業

37. <山形県 コンクリート製品 >
相次ぐ原材料価格の高騰に価格転嫁が追いついていないため、収益が悪化しており、特に10月からセメントの値上げが実施され大きな足かせになっている。
38. <埼玉県 窯業・土石製品 >
7月受付分より値上げが実施されている。但し、実際に出荷が始まるのは先になるため、経営は非常に厳しい状況である。
39. <新潟県 生コンクリート >
10月の出荷は、前年比99%と昨年と同じ出荷となった。想定は前年対比108%位としていたが、若干少ない出荷で終了。年間の想定数量は、わずかながら増える想定に変更した。
40. <長野県 セメント同製品 >
売上高は前年同月比102.5%である。通期出荷目標を前年比123%と設定したが、リニア中央新幹線橋脚工事の遅れで、前年比110%程度にとどまる見込みである。
41. <高知県 コンクリート製品 >
昨年度の繰越工事の出荷も少しはあり、令和4年10月分は前年同月比やや好転した。今後、出荷量が増加する時期であるので期待したい。
42. <大分県 生コンクリート >
県下組合員の出荷量は前年同月対比で79.1%、年度累計で90.3%。原材料の高騰等による価格転嫁を行っているが旧契約物件が大半を占めている状況。

鉄鋼・金属製造業

43. <岩手県 金属製品 >
工場稼働率・手持ち工事量は高水準を維持できているが、徐々に企業間での差が出ている。鋼材や資材価格だけでなく、電力や輸送コストの上昇も重なり、先行き不安感が増大している。
44. <東京都 一般缶 >
原材料である鋼材価格の値上りにより、収益悪化が著しい。一方、値上りに伴う価格転嫁が急がれるが、急激な値上げは他素材容器への転換にもなりかねないので、非常に苦慮している。
45. <新潟県 ハウスウェア >
業界全体として低調で横ばい状況が続く。厨房用品を中心とした業務用品の売上が回復傾向にあるようだが、ステンレス価格の高騰や電気量、副資材の値上がりで、先行き不透明感がある。
46. <石川県 一般機械器具 >
対前年同月比159%と大きく躍進している。建設機械、工作機械と産業機械がリードしている状況である。また、設備投資が目立ち始めており、現状を打破したいという様子が伺える。
47. <愛媛県 鋳鉄铸件 >
今月は、前年同月比生産量124.9%、売上103.7%という状況であった。電力料金の燃料費調整額の高騰が続いており、価格転嫁が追いつかない状況である。
48. <熊本県 異業種 >
原材料、包装紙等全てにおいて値上げが続いており、今後の収益への影響は必至の状況である。また、求人募集に対して応募者が減少している。

一般機器製造業

49. <山形県 その他の機械器具 >
半導体を製造する組合員は忙しく、今後も続く予定。精密機械部品の受注は増加しているが、原料の値上げにより収益を確保するのが大変な状況である。

50. <群馬県 汎用機械器具 >
全体的に好調に推移していたが、自動車関係の伸びが鈍化している。円安進行に対して輸出向けの事業を広く展開する動きがみられる。
51. <静岡県 生産用機械器具 >
EV関連、省エネ設備の受注は相応にあるものの、歴史的な円安がどこまで進むのか先行きが見通せず、設備投資は様子見の状況である。
52. <広島県 一般機械器具 >
新規受注はやや鈍化しているものの、増加していた受注残により、3月迄は高稼働が続く見込であり、売上は前月比10%増加、前年同月比12%増加となった。
53. <山口県 一般産業用機械・装置 >
コロナ禍で保留されていたものの分なのか、受注面では、既に令和5年8月迄の生産力7～8割程度の内示があり、好調な状況。しかし、価格は据置きであり、収益が出る状況にはない。
54. <福岡県 一般機械器具 >
自動車部品の売上は回復傾向にあるが、依然、半導体不足により突発的な減産が発生し、不安定な状況が継続している。製品価格の改訂は、全体の6～7割は実施することができている。

電気機器製造業

55. <東京都 配電盤 >
在庫（特に部品）の大幅増加が続き、収益の悪化に拍車をかけている状況である。引き続き短納期案件の受注が控えている。
56. <長野県 電気機械器具 >
全般的に操業度は改善傾向にあるが、諸物価の高騰により収益状況は不透明である。
57. <山梨県 電気機械器具 >
年度末に向けて現場毎の納品時期が重なってきている。材料仕入価格の上昇、半導体関連材料の納期遅れによる工程期間の長期化、半完成品の増加で売上が回収できず、資金繰りが厳しい。
58. <愛知県 配電盤 >
リニューアルで仕事量は増えてきている。しかし、原材料の高騰、特に輸入関連が高騰している。問題はこうした高騰分を販売価格に転嫁できないことである。
59. <三重県 電気機械器具 >
電気機器部材、半導体関連部材の両方が並行して稼働しているので、何とか95%程度の受発注を確保しているが、原材料、副資材等は1.5～1.2倍価格上昇しており、厳しい状況は続いている。
60. <広島県 電気機械器具 >
新規受注はやや鈍化しているものの、増加傾向だった受注残の影響で令和5年3月迄は高稼働が継続する見込みで、売上は前月比10%増加、前年同月比12%増加となった。

輸送用機器製造業

61. <静岡県 輸送用機械器具 >
10月期カーメーカーの生産調整実施（半導体不足）により2割程度の生産減少となっている。生産計画においても減産分の挽回は行わないとの情報があり、生産計画は下降修正となっている。
62. <愛知県 輸送機器 >
原材料価格の高騰と自動車減産の影響が継続中。併せて足元のコロナ禍と半導体不足の影響も大きい。製造業にとって苦難の年末を迎える。先々不透明である。
63. <岐阜県 輸送用機器 >
組合員の主要事業である航空宇宙関係は、新型機開発の遅れや品質問題によりようやく目途が見え始め、航空旅客も回復気味にあることから、長期にわたる低迷から脱しつつある。
64. <三重県 輸送機器 >
市内の大手自動車メーカーでは、生産数挽回のため休日稼働を2回予定していたが、部品供給不足のため、その2回とも取り止めになり、バックオーダーの挽回は遅々として進んでいない。
65. <兵庫県 輸送用機械器具 >
前年同月比3.0%の減収であった。残り2か月、多少は期待しているが主要取引部門に明るい材料はなく、厳しい状況が継続しそうな感がある。
66. <長崎県 輸送機器 >
先月とほぼ変化は無いが、修繕船の工事終了で操業率が多少下がり、雇員が200名減少した。11月も修理は予定されているが、確定している船は1隻のみでその後の予定は立っていない。

その他の製造業

67. <秋田県 曲げわっぱ >
物価高騰により、ランニングコストが増加しているが、価格に転嫁できていない。元々の値段が「高い」と言われることが多い工芸品は、安易に値上げすることもできず苦慮している。
68. <神奈川県 工業中心の複合業種 >
半導体関連の動きが活発化しているが納品に時間がかかっている。原油、原材料の高騰が顕著であるが、価格転嫁の遅れにより収益は悪化している。
69. <愛知県 アウトソーシング >
自動車業界、部品供給・半導体不足の状況は変わらず、定期的に稼働停止が続いている。航空、産業機械、電子機器関連産業も厳しい状況である。
70. <石川県 漆器 >
原材料費や光熱費・ガソリン代などの価格上昇が止まらず、価格転嫁も含めて不安要因が大きい。展示会の開催も徐々に増えているが、まだまだ売上が伴っていない。
71. <和歌山県 なめし皮・同製品・毛皮 >
企業間で相違はあるものの、全体的に発注件数にやや増加傾向が見られた。このまま年末まで続けばと期待している。
72. <福岡県 豊等生活雑貨品 >
多忙な店と厳しい店があり、全体的には、やや厳しい状況である。しかし、昨年同月より受注量が増えている現況のなか、組合としては楽観できないことを注視している。

《非製造業》

卸売業

73. <北海道 菓子 >
価格値上げが本格化した事で、納入価格自体は上向きだが、値上げした商品の回転率が落ちるなど、今後の状況が懸念される。
74. <福島県 再生資源 >
古紙の市中回収量が減少、品薄となり在庫も減っている。鉄スクラップは国内発生低下により需要がタイトになっており、円安進行のもと輸出市況は底入れ感が出ている。
75. <千葉県 青果 >
食品等全般の値上げの影響で、青果物の動きが鈍い。単価も安定した状況で売上が芳しくない。特に果実は嗜好的な要因で厳しい状況である。
76. <岐阜県 陶磁器 >
需要期に入り好況感が見られるものの、メーカーの人手不足、中間業者の廃業等生産者の能力低下から商品の供給遅延と商品の値上げに苦慮している状況である。
77. <京都府 繊維・衣服等 >
百貨店売上高の好調に伴い婦人服寝具などの売上が増加傾向にあり、製造分野では一部で国内回帰が見られる。全般的にコロナ禍からの回復基調にある。
78. <沖縄県 各種商品 >
売上高は増加するが仕入単価も増加しており、大幅な収益の改善には至っていない。雇用の募集をしても、直ぐには応募が集まっていないのが現状である。

小売業

79. <青森県 家電 >
コロナ感染状況は減少傾向にあるものの、再燃の懸念もある。全国旅行支援が広がるなか、物価は高騰しており、家電製品の値上げも拍車がかかっている。
80. <千葉県 中古車 >
車両生産台数が回復傾向にあるとのニュース記事が出るが、現場においては、若干の納車の早まり（以前と比べ）があるが、下取り車が中古車台数の増に至らず、大変厳しい状況下にある。
81. <富山県 食肉 >
円安による輸入肉の高騰によって商社は在庫を持たなくなり、希望数の入荷が厳しくなっている。仕入価格が上昇しているなか、適正価格まで転嫁できない店が多く、収益は悪化している。
82. <京都府 各種商品 >
海外からの個人旅行緩和、また全国旅行支援により、市場は更に一段ギアが上がった印象を受ける。この状況が着実にしっかりとした流れとなり、どこまで戻るのか注視する必要がある。
83. <高知県 各種商品 >
コロナは落ち着いたようにも見えるが、各小売店では閑散とした状況が続いている。昼間の飲食店は人が動き出している様子だが、第8波とインフルエンザの同時流行も懸念され、元気がない。
84. <大分県 露天商 >
特に好転している実感や、その要素は感じられない。一般の商業活動は、コロナ以前に戻っているように見受けられる。

商店街

85. <茨城県 商店街 >
新型コロナウイルス感染症及び物価高騰の影響が著しく見受けられ、特に、電気代・ガス代等の高騰で、どれだけ節約しても、どれだけ売上を上げる努力をしても、もう限界である。
86. <神奈川県 商店街 >
全国旅行支援が開始、消費者の購買行動はやや促進されている。特に、外出自粛要請で業績悪化していた業種（衣料、化粧品、バイク、自転車、飲食）では売上が回復基調である。
87. <福井県 商店街 >
10月はイベントが多く週末は商店街全体が賑わっていた。全国旅行支援の効果で県外からの人の流れも活発になってきており、来街者数は徐々に回復傾向にある。

88. <山口県 商店街 >
空前絶後の物価高騰で、飲食店だけでなく、小売業を含む全業種と人々の暮らしを直撃している。1月に1缶2,000円であった揚げ油が今は6,500円となり、対応不可能である。
89. <佐賀県 商店街 >
売上は、昨年に比べ増加していますが、景気はあまり良くないような感じがします。円安により、商品の値上げだけが毎月多くあります。
90. <宮崎県 商店街 >
原材料の高騰がより一層激しくなり、各店舗の経営を圧迫している。早急な対応をして頂かないと小規模の店舗から体力切れを起こす可能性がある状況である。

サービス業

91. <宮城県 ホテル旅館 >
10月11日より全国旅行支援がはじまり、宿泊客は増加した。しかし、様々なトラブルが発生し、そのしわ寄せが全て宿泊施設の現場に押し付けられているのが実態である。
92. <愛知県 公衆浴場 >
諸物値が高騰しており、特に電気代の負担がかなり重くなっている。客数は前年並みか若干上回っている施設が増えてはいるが、全体的にみれば厳しい状況は変わっていない。
93. <岐阜県 旅行 >
全国旅行支援が始まり、売上増の組合員が多くいた。但し、同事業は事務作業が煩雑で、割引額を旅行業者が一時立替しなければならず、資金繰りに影響があるため、効果は今一步である。
94. <大阪府 警備 >
ウイズコロナの考え方が浸透し、イベント等の雑踏警備や高速道路工事の交通警備業の受注が増え、売上高、取引条件、収益状況は昨年同月より増加し、業界の景況は好転している。
95. <徳島県 旅行 >
旅行業は全国旅行支援で受注は増加となった。しかし支援としては中小企業の旅行会社、会員にとって収益にはつながらず、依然厳しい現況が続く。全体的な物価高の影響も今後心配される。
96. <福岡県 ビルメンテナンス >
当月の売上は、前年同月と比べると約63%の減少となった。また、前々年同月と比べると約74%の減少となった。

建設業

97. <青森県 一般土木建設 >
材料単価に関しては、変わらず高騰し続けているが、今後更に人件費の増加分を請負価格に転嫁できなければ、採算悪化は免れない。生産性向上を更に進める必要がある。
98. <東京都 鉄骨・鉄筋工事 >
材料費の高騰により、労務単価が圧迫されることが心配される。また、新規の大規模工事の計画はあるが、発注時期がいつになるか確定していない。
99. <山梨県 総合工事 >
10月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ、公共工事の件数は9%減少しており、請負金額も26%の減少となっている。10月累計でも件数で5%、請負金額で6%それぞれ減少した。
100. <福井県 ブロック工事 >
資材の値上がり値上がりによる駆け込み需要で売り上げが増加している。本来なら、この時期に来年の住宅工事の受注見込みが一定数あるのだが、例年比かなり少なく不安感を抱いている。
101. <京都府 一般土木建築工事 >
新規受注の場合、各種資材の高騰及び高止りにより見積価格が高くなり、職人の手間賃をなかなか上げることが出来ない。職人にとっては、実質的に賃金が下がった感覚を持っている。
102. <佐賀県 管工事 >
10月の公共工事受注が前年受注総額の27%と一気に受注したため、組合員は手いっぱい状態である。今後の発注工事を受注できるか不安がある。

運輸業

103. <栃木県 貨物自動車 >
稼働台数は変わらないものの、燃料価格の高騰や円安による物価高により厳しい状況が続いている。半導体不足による自動車部品の出荷の減少で、梱包作業を行う企業は厳しい状況である。
104. <東京都 港湾 >
東京港の輸出入の動向は金額ベースで好調が続いている。輸出は半導体などの製造装置、自動車の部分品などが多く、輸入は衣類、電算機類、魚介類などが多くなっている。

105. <奈良県 軽貨物 >
チャーター便は受注件数・売上とも前年比80%程度。製造・建設業関連は比較的動いているが、長距離配送は前年比70%と減少。引越便は単身者の引越減により非常に厳しい状況である。
106. <島根県 道路貨物 >
荷動きは往路復路ともに低調。特に九州方面からの荷物が少なくなっていることで、九州向けの車両確保が非常に困難となり、効率的な配車を行うことが難しくなっている。
107. <愛媛県 観光バス >
10月の貸し切りバス状況は新型コロナウイルス感染症レベルの低下に加え、全国旅行支援の効果もあり、県外客ツアー団体や学生団体中心に対前年130~160%の稼働となった。
108. <長崎県 運送 >
10月の売上は平年並みであった。円安による軽油価格の高騰が収益を悪化させている。運転手不足も深刻であり、厳しい状況が続いている。

その他の非製造業

109. <宮城県 不動産 >
売買仲介は、建売業者の土地仕入れの引き合いが例年と比較して多い。賃貸仲介は、来春入学の学生の引き合いが多く、賃料についても来年春からの家賃発生物件が増えている。
110. <千葉県 輸出入 >
国の外国人入国制限緩和により10月は、成田空港の外国人利用客も先月に比べ大分増えてきたようだ。店舗の営業時間も延長し、売上も増加傾向になってきた。
111. <新潟県 砂利採取 >
ダンプカーは不足気味である。今後、災害復旧工事が発注され着手すると思われる春先からは更にダンプカー不足、重機のオペレーターの不足になるのではと危惧している。
112. <兵庫県 物品賃貸 >
各社が行っている現行契約の価格改定については、個別の値上げ幅に差異はあるものの、進んでいる。しかし、それを上回る消耗品やエネルギーの高騰が、収益を大きく圧迫している。
113. <岡山県 信用組合 >
コロナ禍の影響は全業種、回復基調にあり、飲食・宿泊業界においても回復している。物価上昇及び製品の納品の遅れ等は依然として続いており、資金繰りについて厳しい状況が続いている。
114. <福岡県 貸金業等 >
コロナ禍にロシア危機が重なり、ブランド古物相場は不安定な局面が続いていたが、急激な円安を背景に高級時計や貴金属は軒並み取引相場が上昇、今後の効果に期待している。